

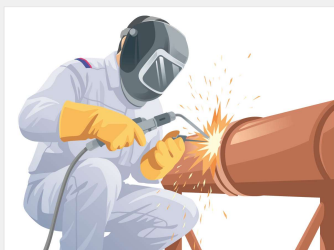
なぜ、いま「遠隔操作」なのか

思い通りにロボットを操る
～人による高度な判断をロボットへ反映～

「自動化を断念したこと」はありますか？

労働人口は減少し、これまで現場を支えてきた熟練者の技と知恵を次の時代へ継承できないまま、操業が維持できなくなる。そんな問題が現場で実感されるようになっていきます。

この問題に向け各企業さまが自動化に取り組む一方で、**自動化が困難な作業**は今も現場に存在し続けています。



分析が困難な作業



状況変化がある作業



小ロット多品種な作業

AIの可能性とデータ学習の必要性

ロボティクス分野でもA I が継続的に進化し、作業の自動化（自律化）につながることを期待されています。



AIの機能を高めるには、
高品質なデータと精確な作業分析による学習が必要です。

AIの有効活用に向け

「人手による遠隔操作」⇒「データ蓄積」⇒「作業分析」⇒
「A I のモデル作成」という段階的導入が必要不可欠です。



それは、自動化への第一歩

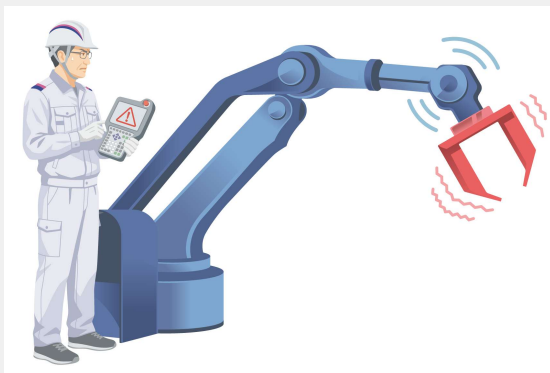
思い通りにロボットを操る
～人による高度な判断をロボットへ反映～

遠隔操作の役割

これまでの遠隔操作ロボットは
「3K作業から作業者を解放する役割」を担っていました。

これからは「人手作業をデータ化するための入力装置としての役割」
も担うことになります。

入力装置としての課題



作業分析やA Iの学習に使う入力データは、
操作者が直観的かつ自然な状態で作業に集中
して得られたものが望ましい。
「操作者が感じるストレスを極力排除し、作業に
集中できる環境」が必要です。

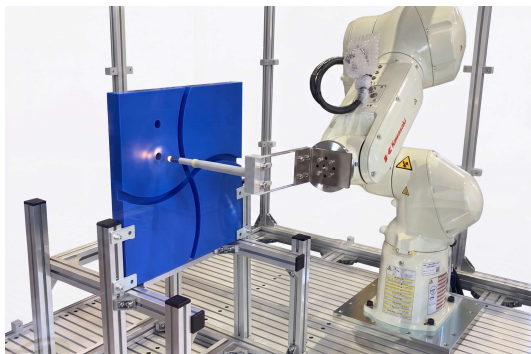
このストレスを解消するために、
我々は2点のコア技術を向上させてきました。

- ①安心・簡単に操作できる支援技術
- ②繊細な作業を忠実に再現できる操作精度

①安心・簡単に操作できる支援技術

ストレスのない操作を実現
～トレースロボット～

曖昧な操作を仮想ガイドが補正
干渉防止機能と操作ガイド



②繊細な作業を忠実に再現できる操作精度

匠の技を再現
～筆ペンロボット～

繊細な動きをリアルタイムに再現



当社と遠隔操作から始める自動化に挑戦しませんか？